

(その1)おうばくプラザって何？ の回答

写真の萬福寺（まんぷくじ）は 京都府宇治市にある黄檗宗の大本山の寺院で山号は黄檗山、本尊は釈迦如来、日本の近世以前の仏教各派の中では最も遅れて開宗した黄檗宗の中心寺院で、中国「明」出身の僧「隠元」を開山に請じて創建された。建物や仏像の様式、儀式作法から精進料理に至るまで中国風で日本の一般的な仏教寺院とは異なった景観のお寺です。その萬福寺の山号となった黄檗（おうばく）は樹木の名前で和名は『きはだ』といいます。萬福寺の裏山にはこの黄檗が群生しています。



さてその『おうばく』や『きはだ』の名前を冠したおうばくプラザは、今から14年前の2009年10月23日、宇治キャンパスに複合施設「宇治おうばくプラザ」が開所されました。300人を収容する「きはだホール」をメインとして、レストラン・コンビニ・セミナー室などを併設するもので、その竣工記念式典には同キャンパスの研究所出身の松本紘総長や尾池和夫前総長、地域を代表して久保田勇宇治市長、岡田亘令黄檗宗管長（萬福寺住職）などが参席され、各々の挨拶では、同キャンパス初となる本格的会議場の実現を喜ぶ声と、大学だけでなく地域に開かれた施設へのアピールが多く寄せられました。松本総長はプラザを拠点として「世界の研究者が国際会議に集い、地域住民の皆様をはじめ一般の方と学生、留学生、教職員、また民間企業の方々とも活発な交流が可能となるようなキャンパスの実現を目指したい」と述べました。開所を祝う声が大きかったのも当然で 同キャンパスは1947年の開設以来、学生・研究員約900人、教職員約800人を擁する京大の第二キャンパスというには余りにも貧弱な状況で、学生や教職員が集う場もなく、学会もそれまでは宇治市のホールなど学外施設で開催されていたのです。

次号 No. 10 発行予定：令和6年1月頃

次の号からのクイズでは、第2キャンパスの京大宇治が1947年に発祥した当時の歴史を振り返りましょう。

シンビオ社会研究会の
ホームページは→[こちら](#)

